

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

☆組織改編・・・植物管理室は、2019年4月より統合生命科学研究科・附属宮島自然植物実験所の所属となりました。

CSRの活動



新学期がスタートしました。東広島キャンパスの自然林では新芽が芽吹き、生き物が活動を始めました。4月23日には、CSRの活動として、かがら山に登り植物と生き物の観察を行いました。

農場側のルートでは、珍しい昆虫にも出会えました。植物好きの人はひたすら植物を観察し、生き物好きの人は、動くものには敏感に反応します。みなさん、自



埋蔵文化財調査室の前の樹木へのネームプレートの取り付け

分に興味のあるものを熱心に観察・調査をしています。これがCSRの活動の良いところです。もちろん、自分たちで調査したり撮影した写真は、Webサイト「広島大学デジタルミュージアム」にアップロードして貴重なデータとして記録に残していきます。今年度は昨年度から引き続き、植栽樹木ネームプレート作りの活動にも取り組みます。

キャンパスのミスキ科

春から初夏にかけて東広島キャンパスやフールバールで、アメリカヤマボウシ(別名: ハナミスキ)とヤマボウシをよく見かけます。どちらもミスキ科ミスキ属の樹木で、4枚の総苞片の真ん中に小さな球形の花をつけます。ヤマボウシの総苞片の先端は手裏剣のように尖っていますが、ハナミスキは窪んでいます。ハナミスキの樹皮は縦に細けませんが、ヤマボウシは避けません。ハナミスキは桜の花が終わる4月中旬から5月上旬にかけて咲きますが、ヤマボウシは、その後、5月中旬ごろから咲きはじめます。ハナミスキは葉より先に花が咲きますが、ヤマボウシは葉が出た後に花が咲きます。園内では、6月になるとミスキと同属のクマノミスキの花が咲きはじめます。↑



アメリカヤマボウシ



ヤマボウシ



関 太郎 先生が来園されました

4月16日に、広島大学名誉教授で植物学の権威、関太郎先生が東広島植物園に立ち寄られました。関先生は、今でも宮島実験所において植物学の研究に取り組まれ、学生などの指導をされている大先生です。東広島キャンパスでわからない植物は関先生に同定をしていただいております。関先生に寄贈していただいたヒトツバタゴの木を囲んでの一枚 →



栽培実習・R3年春コース



自分の植えるトマトの苗を熱心に選ぶ学生たち ↓

4月から春コースを開始しました。今回もたくさんの参加申し込みがありました。野外においても、コロナ感染症には配慮しながら、実習を進めています。5月には、トマトやトウモロコシなど夏野菜苗の植え付けを行いました。今回は、初めてキュウリの栽培も行うことにしています。



サクラの生育調査



キャンパスのサクラの充実化を目指して

3月から4月にかけて、農場や幼稚園、宿舍などを含む東広島キャンパス全域のサクラ調査を行いました。今回の調査で、現在のキャンパスのサクラの総本数、品種、植栽場所について、正確な情報を得ることが出来ます。



国際研には苗木を植栽しました

かがら山ハイキング

3月31日、学童保育の子どもたち10名が、かがら山でハイキングを行いました。山頂まで、植物の観察やクイズをしながら楽しく登りました。帰りは、ツツジ科のスノキの葉をかじって酸味を体験したり、景色を眺めたりして歩きました。



園内の花

ゴクラクチョウカ

Strelitzia reginae Banks ex Aiton



ゴクラクチョウカ科 極楽鳥花。園芸では、ストリチアと呼ばれる。南アフリカを中心に5種程度が分布している。温度があれば周年開花し、切り花として人気がある。

園内の花

モッコウバラ *Rosa banksiae* R.Br.



バラ科 中国原産。常緑つる性低木で花期は初夏。一重咲きの黄花や白花には芳香がある。病気に強く成長が早いので庭園などでアーチやフェンスに用いられる。茎にトゲがない。



【お問い合わせ先】

広島大学 統合生命科学研究科 東広島植物園

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp